

スリランカ —新しいオピニオン・サイト

荒井悦代

スリランカにおける注目すべきサイトの一つとしてグラウンドビュー (Groundviews: 以下GVと略す) を挙げる。GVは、CPA (Centre for Policy Alternatives, 「政策代替案センター」という一九九六年設立のNGOが運営しているサイトである。当時の

時代背景としては、内戦がコロンボにも影響を及ぼし緊張が高まっていた時期である。すなわち、政府と Liberation Tigers of Tamil Eelam: タミル・イーラム解放の虎 (LTTE) の交渉 (一九九四年) が決裂した結果、内戦が再開・激化し、コロンボの中心部にある中央銀行も爆破 (一九九六年一月) された。政治的解決と軍事的解決の双方が模索されていた。その中で、自由な立場からさまざまな可能性を探るNGOとしてCPAが設立された。

サイトの運営開始は二〇〇六年一月なので、歴史はそれほど古くない。前年の二〇〇五年には政府とLTTEとの「二〇〇二年停戦合意」が名目的となり、各地で衝突が多発していた。そして、二〇〇六年七月にはLTTEとの最終戦争へ突入している。

執筆陣には、経験豊富な学者やジャーナリストから若手まで幅広く取りそろえている。例えば、Dayan Jayatilake (外交官としてスリランカ国連代表を経て、現在はフランススリランカ大使として赴任中) の記事はサイト開設以来の最多の読者を獲得した。ダヤン氏は現政権サイドにありながら人権、戦争犯罪、虐殺、ガバナンス、人道に関して、将来を見据えた示唆に富む記事を発表し続けている。二〇〇九年一月に何者かに射殺されたジャーナリスト、ラサ

ンタ・ウイクレマトウングの夫人による、警察への嘆願書も掲載され話題を呼んだ (夫人は、数多くの新聞社に嘆願書を掲載するよう要請したが拒否された)。分野もガバナンス、人権、平和構築および芸術・文学等の事象など多岐にわたる。記事の切り口も、新聞や

テレビなどのメディアよりも長期的な視野で分析されている。そして、運営開始当時から北・東部における戦闘や人権の状況、人道上の問題を伝えていたことは、現在において重要な意味を持つ。なぜなら、二〇〇九年五月の内戦終結時に政府やLTTEによって戦争犯罪や深刻な人権侵害があったとされ、国際社会から問題視されているからである。GVは、それ以前から内戦の背後で起こっていたことを継続して観察してきたと言える。

GVでは記事だけでなくコメントも充実している。内戦終結時の問題などについて調査を行った、過去の教訓・和解委員会の最終報告についての記事には、行方不明者調査委員会のメンバーからも意見が寄せられている。コメントでは、多大なエネルギーを費やして作成した提言が真剣に検討されなければ、その後の人権侵害の発生を防げたのではないかと述べ、提言の実施を求めている。

GVには、先端的な意見も表明され、情報を分析するうえでの指標が豊富に提示されている。しかし、注意点としては、こうした記事やコメントは英語で書かれていること、そして、ネットにアクセスできる人口はまだ限られていることである。都市人口はスリランカのほんの一部に過ぎない。圧倒的に人口の多い農村での選挙結果が政治の趨勢を決めるため、注意を要する。その一方で、北・東部の情勢分析について認識が甘いという批判もある。当事者には机上の空論と映るのかもしれない。

(あらい えつよ/アジア経済研究所 南アジア研究グループ)